

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在のところ出来ていない。		早急に検討し、花梨の郷らしい独自の理念をつくる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼の場で理念を復唱し、会議の場でも理念を共有化し、実践に向け取り組んでいる。	○	朝礼の場で理念を復唱、会議の場でも理念を共有化を続け、実践に向け取り組み続ける。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	現在のところ出来ていない。		家族や地域の人々に理念を理解してもらえるよう働きかけていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方と一緒に散歩したり、公園での交流を大切にしている。また、気軽にホームに立ち寄っていただいたり、前庭で立ち話やお茶会など行われている。	○	今度もより一層、近隣との交流を深めていきたい。
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のお祭りや神社の草取り、初詣や元旦マラソンの応援に参加している。	○	今後はもつと積極的に地域活動に参加する機会を多くすることにより、ホームの理念を地域に理解して貰える様努めたい。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ出来ていない。		今後、地域の方との交流や話し合いを進めていく中で、役立てることをみつけて実現化していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価での改善点を会議の場等で話し合いをしてはいるが、日々のケアに完全に反映できてはいない。つき一回		評価での改善点だけでなく、評価項目を会議の場等で話しあい意識することで、日々のケアに反映できるよう活かしていきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ出来ていない。		早急に検討し、進めていく必要を感じている。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回の相談員訪問を受け入れている。また、運営上の不明点等を高齢施設化に電話相談している。	○	相談員受け入れ事業を通して、市町村や他施設との連携を図りサービス向上に努めて行きたい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ出来ていない。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、あんしんケアセンター等に出向き、学ぶ機会を機会をもつことにより、必要な人に支援できるようにしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連の資料を回覧したり、会議で話し合う場を設け、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。	○	今後も、高齢者虐待防止法関連の資料を回覧や、話し合う場を継続し、虐待が見過ごされることがないように防止に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って	契約時以外でも随時、行っている。	○	今後も利用者や家族の不安・疑問点解消に努めていきたい。
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ、管理者や職員が個別ケアを通して利用者の意見や不満・苦情を引き出す場を設け、改善に努めているが、外部者へ表せる機会はない。	○	利用者の意見や不満・苦情を外部者へ表せる機会を設けていきたいが、外部者への相談に関して、入居者への守秘義務や個人情報保護の面で多少疑問を感じる。当面は相談員の協力を得て、改善に努めていきたい。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、暮らしぶりや健康状態についてお手紙で報告書している。また、心身状態に特変があった場合には随時電話連絡を行っている。	○	継続していく。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ、管理者や職員面会時等の場を通して家族の意見や不満・苦情を引き出す場を設け、改善に努めているが、外部者へ表せる機会はない。		家族の意見や不満・苦情を外部者へ表せる機会を設けていきたい。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を通して話し合ったり、運営者や管理者と食事をしたりする機会を設け、気さくに話せる関係作りをしている。	○	サービス向上に反映されている。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の状況変化というのはわからないが、利用者の状況変化に応じて必要な時間帯に職員を確保する為に勤務内容の調整等をしている。	○	勤務内容の調整等で対応しきれない状況が出てきた場合には職員の増員を検討する。
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の働きやすい環境や要望に応じられる面は極力対応するようにしているが、個人的・身体的な理由で離職があるのが現状である。職員が離職する際には、毎月の報告書にてその旨知らせている。依存傾向がある場合などは家族・職員間で受け答えを統一している。	○	管理者や職員が働きやすい環境づくりに一層努力していきたい。馴染みの職員による支援を継続し、サービスの向上に努めていきたい。
5. 人材の育成と支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての計画は現在のところ出来ていないが、研修等の確保はしており、会議等で研修報告を行うことで、日々のケアに活かせる様トレーニングしている。		サービスの質を高める為、管理者や職員の段階に応じた育成計画を早急にたてる。法人内外の研修を受ける機会を更に多くし、育成に努めていきたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、若潮ロータリーの福祉施設連絡会の勉強会に参加し、同業者との交流の機会を設け、サービス向上に取り組んでいる。	○	今後も、同業者との交流や訪問等の機会をより一層多く設けることにより、職員の意欲向上につなげ、サービスの質を高めていきたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は現場から離れてゆっくりとくつろぐ環境を作っている。場所は特定されるが、喫煙も自由にできる。また、希望者も取り入れ、ストレスの軽減に努めている。	○	今後も、職員と話し合いながらストレスの軽減に努め、働きやすい環境作りにも力を入れていきたい。また、職員を対象とした食事会やイベントの機会をもっと多くしていく。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	3ヶ月に1回の査定を行い、その際に勤務態度や努力・実績を時給に反映させている。	○	3ヶ月に1回の査定がストレスにならないように、日々の関係作りを大切にしてい
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の際に本人からの聞き取りも行うことにより、困っていることや不安なこと、求めていることを聴く機会を作り、その気持ちを受け止める努力をしている。	○	少しでも本人が本当の気持ちを話せる雰囲気作り配慮していきたい。(家族の前ではなかなか話せない事を個別に聴く機会を工夫していく。)
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学相談の際に家族からの聞き取りを行うことにより、困っていることや不安なこと、求めていることを聴く機会を作り、その気持ちを受け止める努力をしている。	○	少しでも家族が本当の気持ちを話せる雰囲気作り配慮していきたい。
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のところ出来ていない。		相談を受けた際には、必要としている支援を見極める力量をつけていきたい。
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当日ではなく、安心し納得して入居出来るよう、事前の荷物搬入の際等に可能ならば家族と一緒に本人にも同行して頂き、職員や他の利用者と過ごす時間を設けることで、少しでも場の雰囲気に慣れて頂けるよう配慮している。	○	入居前までに少しでも職員や他の利用者、雰囲気に馴染んで頂けるよう行事等へのお誘いをしていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で趣味や特技を活かせる場面作りをすることで、利用者自身から教えて頂いたり、支えあう関係作りをしている。その為に必要な生活歴等の背景情報を職員間で共有し、場面作りやケアに反映させている。	○	職員は背景情報だけでなく、会話やふれあいを通じ、その方の出来る事や得意なことを引き出し、活躍出来る場面を多くしていく。
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合える関係作りの為に、報告や相談を行っている。	○	家族参加の企画をもっと多くしていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	敬老会や父母の日会等の企画では家族からのお手紙という形で企画の一端を担って頂き、本人と家族の関係がより良く継続出来るよう支援している。また、生活していく中での変化を随時報告することで情報共有を図っている。午前8時～午後9時まではいつでも面会できるようになっている。外出も外泊も自由。	○	家族との関係が途切れることのないよう、より一層努めていく。(家族が気軽に参加できるような企画を考えていく。)
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきたなじみの人との手紙交換や電話・外出・外泊も自由に出来る。本人が望む場合は家族に協力して頂き、お墓参りや旅等に行く人もいる。	○	今後も継続していく。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の食事作り等を通じて、利用者同士が支えあい、関わり合っている。	○	今後は更に利用者同士の関わりを深める機会を増やしていく為、企画の充実を図っていく。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し他施設に移られた利用者の面会には行っている。		季節のお便り等を検討していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やふれあいを通じて本人の意向を汲み取る努力をしている。	○	これからも、意思表示が難しい方でもあきらめることなく、会話やふれあいを通じて少しでも本人の意向を汲み取れるよう努力を続けていく。どうしても難しい場合には、家族と相談の上、その方の気持ちに少しでも近づけるよう努めていく。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を申し送りノートを活用し、職員間の情報共有を図っている。家族や前のケアマネージャーと連携し、把握に努めている。	○	これからも継続していく。
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい過ごし方や有する力の見極めを職員との関わりの中で把握している。	○	これからも継続し、少しでも出来る事を探っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、職員全員からの意見収集をしている。意見収集からアイデアや取り組みを反映し、家族からの意向も面会時等を利用し反映している。	○	これからも意見収集用紙を活用し、色々なアイデアや取り組み、気づきを介護計画に反映していく。
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、期間が終了する際には見直しを行っている。また、状況変化があればその都度、関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。(意見収集の活用)	○	今後も、日々のふれあいの中から状態の変化を把握し、意見収集を利用してそれぞれの意見や取り組み、アイデアを介護計画に反映させていきたい。
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ひとり一人の日々の様子をケース記録に残しており、勤務前には必ず目を通すことで小さな情報でも共有し、介護計画に反映している。	○	今後も継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところ出来ていない。		事業所の多機能性を活かした柔軟な支援に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向や必要性に応じて、市役所の福祉課に相談し、ボランティアを紹介して貰っている。ふるさと農園は頻繁に利用している。近隣の保育所とも交流をもっている。	○	今後は今まで以上に積極的に関わりをもっていきたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリや訪問歯科、訪問理容、訪問看護を利用している。	○	今後は他のケアマネージャーとの交流や関係作りをしていくことで、サービスの幅を広げていきたい。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ出来ていない。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、あんしんケアセンター等に出向き、学ぶ機会を機会をもつことにより、必要な人に支援できるようにしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を適切に伝え、連携し対応している。必要があれば、医師と家族の話し合いの場を調整する。	○	本人や家族の意向に配慮しながら、適切な医療が受けられるように支援していく。
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の診療所・総合病院と連携協力を結んでいる。また、診療所の医師は認知症にも詳しく、気軽に相談でき、往診もしてくれる。	○	更に連携を密にし、利用者・家族の不安解消に努めていく。
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの同じ看護師が週1回訪問することにより馴染みの関係が確立されつつある。また、心身状態に変化がある場合は主治医との連絡・連携をとってくれている。	○	更に連携を密にし、サービスの向上に努めていく。
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、必ずお見舞いに行き、状況把握や退院後の生活について家族や病院関係者と話し合いの場を設けている。	○	更に連携を密にし、利用者・家族の不安解消に努めていく。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションとの医療連携により、終末期に向けての支援が具体化してきている。	○	更に連携を密にし、利用者・家族の不安解消に努めていく。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護ステーションとの医療連携により、終末期に向けての支援が具体化してきている。	○	更に連携を密にし、家族の不安解消に努めチーム一丸となりその方の看取りをしていく。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の際には、家族だけでなく移転先の施設のケアマネージャーと連絡を取り合い、情報交換を行っている。	○	今後も継続していき、移り住むことでの不安や混乱を最小限にとどめられる様支援していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけや対応について繰り返し話している為か、以前よりは改善出来ている。	○	今後は研修や勉強会への参加を多くし、育成に努めていきたい。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	少しでも自分で選択出来る機会を多く設け、納得しながら暮らしていけるよう配慮している。週1回の買い物日には、好きなもの・欲しい物を御自分で選んで頂けるよう支援している。	○	日常生活の様々な場面で自然に自己決定が出来るよう配慮している。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟に一人ひとりのペースを保てるよう支援している。起床時間や就寝時間、入浴時間も本人の希望を重視している。	○	職員が利用者のペースに合わせた言葉掛けや、待つことの大切さを会議で繰り返し話していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望があれば職員と一緒に近隣の美容室に出かけている。また、出かけたくない方や出かけられない方については定期的に訪問理容を利用している。外出時、女性の方についてはお化粧をしている。	○	出来る限り希望に添えるよう対応をしていきたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材をみて、自分達でメニューを決めて頂いたり、食事準備(調理・配膳等)や後片付けをすることにより、役割を見出し、一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。	○	今後も継続していきたい。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙する方については散歩がてらタバコを買いに出掛け、好きな銘柄のものを自分で選んで頂いている。お酒やおやつ・果物や佃煮・梅干等は買い物日に御自分で選んで頂いている。	○	今度も継続していきたい。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをチェック表に記載し、大まかに把握しているので、随時さり気ない声掛けを行っている。強要したり、せかしたりはしない方針で、個々に合わせた誘い方をしている。	○	今後も継続し、少しでもパット内ではなくトイレでの排泄が出来るよう配慮していく。しかし、パットを濡らさないということだけを重視し、トイレ誘導だけで1日が終わることがないように十分配慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう努める。
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じていつでも入浴出来るよう支援している。本人の希望で毎日入る方もいれば、一日おきに入られる方もいる。入ったことを忘れ、1日に2度3度入る方もいる。(身体状況により本人に納得して頂き、入浴を勧める場合もある。)	○	本人の自己決定を支援していく。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩への促しを行い、季節を感じつつ気分転換を図れるよう配慮し、自然と日中の活動を多くして夜間ぐっすり眠れるよう工夫している。なかなか寝付けない方や眠れない方については睡眠状況を観察・記録し、個別ケアで対応している。	○	日常生活の充実・活性化を図ることにより、極力薬に頼らず安心して気持ちよく眠れるよう工夫していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩だけでなく、利用者の楽しみや気晴らしとしてボランティアの方に協力して頂き、日本舞踊やソーラン節、民謡やカラオケ、マジック等の開催をしている。また、日常生活の中でその方の出来る事・出来そうなことを把握に努め、出来るだけ自分のことは自分で行うことで達成感を感じ、意欲につなげている。、	○	このまま継続していく。促しや働きかけが利用者の負担にならないよう十分配慮していかなければならない。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は同意書を得た上で、所持されていたが、しまいこみ・盗られ妄想等の症状が顕著となって来た為、家族から希望により、現金は事務所預かりとし、他者同様立替金対応としている。	○	その方の状況に応じ、家族・本人と相談の上判断していく。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節により初詣やお花見、紅葉見物に行ったり、地元のお祭りに参加されたりとその方が希望された場合は家族と協力しあい、昔なじみの場所への外出を支援している。また、月1回の外食会やピクニックの催しもしている。あまり外に出たがらない方については前庭で日光浴をし、お茶会や食事会を企画。歩いて散歩に出られない方は車椅子で散歩に行かされている。	○	少しでも利用者が胸に秘めている気持ち・希望等をふれあいを通じて引き出し、実現に向け家族と協力していきたい。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活の中での会話やふれあいを通じ、本人の希望や思いを汲み取り、個別ケアとして行っている。家族参加の遠足は雨天の為中止となってしまい、残念だった。	○	今後も、利用者が家族と楽しい思い出作りが出来るようパイプ役となり、様々な企画を考えていきたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を利用者から家族へ書いて頂いている。	○	これからも家族のつながりが途切れないう支援していく。
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	これまで大切にしてきたなじみの人との手紙交換や電話・外出・外泊も自由に出来る。面会の際には、その方の居室等で気兼ねなくお茶を飲んだりしながらゆっくりと過ごして頂いている。	○	面会者が気持ちよく過ごせるよう、居心地の良い雰囲気を作りや職員は対応に気をつける。
(4)安心と安全を支える支援						



項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動抑制・身体拘束は行っておらず、一人で外出してしまう方については外出傾向の把握・外出の察知に努め、担当者が行動把握を行い、出て行ってしまった場合は後からついていく等の対応をしている。記録にも残し、家族への報告も行っている。外出同行時は必ず、携帯電話を所持し、何かあったらすぐ応援が呼べるようにしている。	○	暗くなってからの外出時は懐中電灯を持参し、危険回避に十分配慮していく。また、【介護保険法指定基準における禁止対象となる具体的な行為】の資料を再確認していく。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室の施錠はしていないので、外出傾向のある方の行動把握に努め、玄関扉のベルや玄関先の暖簾につけた鈴等で外出の察知を行なっている。また、他者の居室に入ってしまうこともある為、他者とのトラブルは事前回避に努めている。	○	施錠に頼ることなく、利用者が生活出来るようにさり気ない工夫を更に考えていく。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当日勤務者は昼夜共に、それぞれの利用者の心身状況や行動把握に努め、居室で過ごされている方でもドア越しに安否確認することにより、安全に配慮している。	○	心身状況や行動パターンに変化のある場合には職員間における情報交換を行い、把握していく。
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中は利用者が自由に使えるように出している為、常に注意を払っている。夜間帯は数の確認をし、施錠出来る場所に保管している。(刃物・薬品洗剤類)また、タバコに関してはスタッフ側で保管しており、希望時に渡している。喫煙中はその方の傍を離れず、会話等をしながらさり気ない見守りを行なっている。	○	今後も、利用者の状況に応じて対応していく。
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事故防止については、過去の事故報告書を参考にして会議等の場で、防止策について話し合いの場を設けて取り組んでいる。また、火災予防チェックリストに沿って点検し、火災防止に努めている。	○	転倒・窒息・誤薬等への予防策・対応方法を医師や看護婦から学び、急変時に備える。また、
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	火災初期消火を含む避難訓練は定期的に行なってはいるが、応急手当等の訓練は出来なかった。	○	今後は、全職員が応急手当を出来るように力をいれていく。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在のところ出来ていない。		日頃から地域の人々に協力を得られるような関係作りに取り組んでいく。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	見学・相談、入居契約の際だけでなく、状況変化に応じてその都度、起こり得るリスクを家族に説明している。	○	日常生活において、監視・管理・抑圧されているというような感情を利用者が感じないよう、さり気ない支援・見守りをおこなっていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・昼・就寝前とバイタルチェックを行っており、一人ひとりの症状変化の早期発見に努めている。異常と思われる場合には主治医・訪問看護師に指示を仰いでいる。	○	随時、主治医や訪問看護師との連携を密に保ち、利用者の体調変化に対応していく。
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量・副作用・注意すべき点等については【申し送りノート】を活用し、周知徹底を図っている。処方時の薬袋は薬名・用量が記入してあるのでそのまま使用し、各自の個人Boxで保管している。夜勤者が翌日の薬を準備する際、服薬介助の際にきちんと利用者名・薬名・用量を必ず確認し、一人ずつ服薬を渡し、飲み込みまで確認している。(確認の方法は右記載⇒)	○	夜勤者が翌日の薬を準備する際、薬箱に入れる際、棚に戻す際、服薬介助の際にも利用者名・薬名・用量を再度確認して誤薬のないように再三の注意を払っている。服薬責任者が飲み忘れがないかも確認している。症状変化も経過観察・記録・報告している。
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、献立も野菜を多く摂れるようアレンジしたり、盛り付けの工夫を行い、自然に食べられるように支援している。利用者の状態に適した食事形態で提供し、あまり水分を摂りたがらない方には回数を分けて少量ずつ勧める工夫をしている。天気の良い時には散歩等に出掛け、身体を動かす働きかけやトイレでの排泄を習慣化している。	○	訪問看護の連携に伴い、個々に応じた便秘予防や腹部マッサージを教えて頂き、実践していく。
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や就寝時の義歯洗浄は出来ている。(出来る方には自分でして頂けるよう促し・見守りを行なっている。)毎食後の口腔ケアをして頂けるよう働きかけをしてはいるが、どうしてもフロア対応が優先となってしまう為、徹底には至っていない。外出後のうがいも促してはいるが、習慣化されていない。	○	脱衣室や各自の居室へ行っの口腔ケアには対応が追いつかない現状がある為、リビングに洗面台の設置を検討している。毎食後のうがいや義歯洗浄を少しでも自分の力で行なえるよう働きかけていく。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は一人ひとり確認し、チェック表に記録しており、摂取量が少ない場合には時間に拘らず、本人の好む食べ物や水分で補足を促している。利用者の状態に応じて食事形態や摂食介助も行なっている。食べ方の混乱や食べこぼす等に対するフォローもさり気なく行なっている。	○	摂食介助も【自分で】という気持ちを大切にしながら行なっていく。
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	リスク対応マニュアルに記載されており、それに沿って対応している。最新の資料・対応法が更新される度に差し替えを行なっている。発症期間間近になったら、リスク対応マニュアルの再確認や、注意を払い対応していくよう指示している。	○	リスク対応マニュアルに記載されている通りに徹底されているかどうか監督していく。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器・布巾・雑巾類のピューラックス消毒、使用前の包丁・まな板は熱湯消毒を徹底している。	○	リスク対応マニュアルに記載されており、それに沿って対応していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や前庭に花を植えたり、ベンチやテーブルを置き、親しみやすい雰囲気になっている。	○	バルコニーテラスの増築の予定があり、これを利用して近隣住民との交流を深めていきたい。
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者落ち着いて過ごせるよう光や音にも配慮し、生活感や季節感を意識した飾り付けをしている。廊下には入居者の作品や行事の写真を掲示し、面会に来た家族も一緒に見られるようにしている。	○	今後も継続し、更なる工夫に努めていく。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルを3つに分割し、気の合う方同士で調理をしたり、楽しく食事を取って頂けるよう配慮している。リビングには大きなソファや一人掛けの椅子を複数設置し、好きな場所でゆっくりとくつろげるよう配慮している。また、廊下の端にもベンチを設置し、一人になってゆっくり出来る場所もある。	○	職員は利用者間の、関係作り・再構築の橋渡しをしていく。その方の皆と過ごす時間・一人で過ごしたい時間を尊重しつつ、孤立感・孤独感を感じさせないように配慮していく。
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって使い慣れた馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。少しでも住み慣れた生活環境に近づけ、安心して暮らして頂けるよう配慮をしている。	○	状態に応じて利用者が居心地良く安心して暮らせる環境を家族と相談しながら、整えていく。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のだよみがなよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がなよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は1時間に1回を行っており、臭気や空気のだよみがなよう配慮している。温度調整も室内にある室温計を確認しながら外気温と大きな差がでないよう心掛け、調整を行なっている。(夏:25度、冬:22度)	○	状況に応じて細やかな調節に配慮していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すり設置や利用者が洗濯を自分で干せるよう高さ調節をしたり、洗い場に踏み台を置く等の工夫により、身体機能に応じて少しでも自分で出来る事を安全に配慮しながら支援している。	○	一人ひとりの身体機能の状況変化に応じて、対応方法を変えていく。
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に写真入の表札を掲げたり、風呂場は暖簾を目印にしたり、トイレには【便所】の貼り紙をしている。その事により、場所間違いや、分からないことでの混乱を最小限に防ぐ為の工夫をしている。	○	混乱や失敗を少しでも回避できる環境を整え、さり気ない気遣いで対応していく。また、家庭的な雰囲気壊さないよう十分配慮していく。
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や前庭に花を植えたり、ベンチやテーブルを置き、日向ぼっこをしたり、青空昼食会やお茶会など催している。花植えやベンチのヤスリがけやペンキ塗りも利用者と一緒に行なっている。	○	隣の土地を庭にする予定になっているので、今後利用者と共にくつろげる庭作りをしていき、活動出来る機会を多く設けていきたい。

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者ごろへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③ <u>家族等の1/3くらいが</u> ④ほとんどできていない